

高来図書室だより

2021年(令和3年)1月号 NO.172

諫早市立高来図書室

〒859-0117

諫早市高来町峰19-1

(高来西ゆめ会館内)

TEL 0957-32-2395

開室時間 午前10時~午後6時

<https://www.lib.isahaya.nagasaki.jp>



今年(今年)は丑年

今年(今年)は丑年です。

牛は一万年も前から人間に飼われており、身近な家畜として親しまれてきた動物ゆえにことわざ・慣用句などにもたくさん登場します。

たとえば「牛の歩みも千里」。牛は歩くのが遅い動物ですが歩き続けられれば千里(約4000km)をいくこともできることから、一步一步努力すれば、やがて目標にたどりつくことができる、というたとえです。

今年もどのようなことが起こるかわかりませんが、みなさんがそれぞれの一步をすすめることができますように。

本年もどうぞよろしく
お願いいたします

今年もあります、本の福袋

大人向けには開運おみくじ付き、

子ども向けにはゴールデンヨムッキー入りです。

1月10日(日)まで、無くなり次第終了です。

津軽三味線 演奏します

1月5日(火)と1月6日(水)の2日間、
図書室の開室時間に合わせて津軽三味線の演奏を行います。新たな年のはじまりに、迫力ある演奏に触れてみませんか?
高来西ゆめ会館ロビーにて、
朝10時より15分ほどの予定です。
ぜひお越しください♪

初春 おすすめの本

『ひとめあがりー落語絵本13』

川端 誠/著 (クレヨンハウス)

正月、ひまなもんで、ご隠居のところへでかけた八つあん。ご隠居に掛け軸のほめ方を教えてもらい、さっそく掛け軸を持っていそうな人のところに行って、ならったとおりにほめてみるが…。落語で新年や興行初日に演じられる、目があがっていくというおめでたい噺「ひとめあがり」を、子どもから大人まで楽しめる落語絵本シリーズで紹介しています。

『池田屋乱刃』

伊東 潤/著 (講談社)

幕末京都、池田屋で新選組に斬られ散っていった各藩の志士たち。吉田松陰や坂本龍馬といった熱源の周囲で懸命に生き、日本を変えようとした男たちの生き様と散り際を熱く描いた短編集です。多くの者が死に、何が成し遂げられ、何が失われたのか。国を憂う志士たちの烈しい生き方とその覚悟に圧倒され、懸命に生きることを意味される一冊です。

おはなし会 のはなし

11月のおはなし会は、

『ゆきだるまのきち』 『もりのおふろ』

『スカンククーのおなら』 『てぶくろ』を読みました。

今月の
おはなし会は
1月23日(土)
午後2時~です。

※おはなし会は状況により中止になることがあります。

詳しくはホームページをご覧ください。

1月のカレンダー

日	月	火	水	木	金	土
					X	X
X	X	5	6	7	8	9
10	X	12	13	14	15	16
17	X	19	20	X	22	23
24	X	26	27	28	29	30
31						

X:休室日

■:おはなし会

新着案内

【一般書】



『伊達女』 佐藤 巖太郎／著 (PHP研究所)
 男たちに示そう。たじろがない女の姿を。母・義姫、妻・愛姫、保母・片倉喜多など、独眼竜政宗を照らし出す戦国の女たちの生き様を描いた連作短編集。『歴史街道』掲載に書き下ろしを加えて書籍化。

『冬の狩人』 大沢 在昌／著 (幻冬舎)
 3年前の未解決殺人事件の重要参考人から、警視庁新宿警察署の佐江が護衛するなら出頭するという連絡が。だが彼は、暴力団員との撃ち合いが原因で休職中。なぜ彼に指名を…? 『茨城新聞』『東京スポーツ』ほか掲載を書籍化。

『銀の夜』 角田 光代／著 (光文社)
 女子高時代に少女バンドでメジャーデビューをしたちづる、麻友美、伊都子。35歳の今、欲しいのは生きる手応え。これからの人生に、あれ以上興奮することはあるのだろうか…。『VERY』2005～2007年連載を書籍化。

『今夜』 小野寺 史宜 (新潮社)
 ボクサー、タクシー運転手、警察官、高校教師。その夜、人生の境界線上に立った4人の男女。その背中を、夜に潜む魔物がそっと、押す。選んだのは、善? それとも悪? 人間の強さと弱さを繊細な視線で見つめた物語。



その他の新着本

- ❖ 『島田秀平のニッポン開運ライン』
- ❖ 『民藝と手仕事』
- ❖ 『和布で作る縁起がいい飾りもの』
- ❖ 『身近なプラスチックがわかる』
- ❖ 『定年前後のお金の正解』
- ❖ 『60分でわかる!eスポーツ最前線』
- ❖ 『ジンジャースイーツ』
- ❖ 『志麻さん式定番家族ごはん』
- ❖ 『ひまつぶ刺しゅう』
- ❖ 『家時間 新しい日々に寄り添いながらこれからの暮らしを楽しむ』
- ❖ 『お龍のいない夜』
- ❖ 『一橋桐子<76>の犯罪日記』

【児童書】



えほん

『ふゆごもりのまえに』
 ジャン・プレット／作、こうのす ゆきこ／訳 (福音館書店)

冬眠するために巣穴に向かう、はりねずみのハリー。農場にいる動物たちはハリーに、昨年ハリーがふゆごもりしている間に起こった素晴らしい出来事の数々を話します。ハリーは、それらを見てみたくて…。『ぼうし』の姉妹編。

よみもの

『江戸の空見師 嵐太郎』
 佐和みずえ／作、しまざきジョゼ／絵 (フレーベル館)

江戸の町に住む空見 (=天気予報) の得意な少年・嵐太郎のもとに、奉行所から一世一代のお役目が舞い込む。それは「黒船来航の日を予測せよ」というもので…!? 黒船来航の史実をもとにした、幕末フィクション。

しぜん

『クジラが歩いていたころ』
 ドゥーガル・ディクソン作、ハンナ・ベイリー絵 (化学同人)

生命が海から陸にはい上がった瞬間、わたしたち霊長類の祖先が木から地上におりた瞬間…。この地球の歴史は、すばらしい物語に溢れている。太古の世界にタイムスリップし、驚きに満ちた動物たちの進化をイラストとともに紹介。



そのほかの あたらしい本

- * 『会えるかも!? 妖怪ずかん』
- * 『のびるじどうしゃ』
- * 『このかみなあに? トイレットペーパーのはなし』
- * 『おたつうし』
- * 『信じられない現実のうんこ科学図鑑』
- * 『橋の上の子どもたち』
- * 『ねこの町の小学校 たのしいえんそく』
- * 『ニマとおにばば』
- * 『すずめのうんどうぼうしつくります』
- * 『しかくいので』
- * 『チョコとチョコレートの魔女 café IM'ラト』
- * 『ぼくと石の兵士』